

富山湾で漁獲されるソウダガツオについて
～全国でも有数の漁獲量を誇る富山県産ソウダガツオの謎に迫る～

海洋資源課 主任研究員 南條 暢聡
内水面課 主任研究員 野村 幸司
食品研究所 食品化学課 研究員 川口 航平

1 背景・ねらい

マルソウダは世界中の温帯・熱帯海域に分布しているサバ科魚類である。日本では北海道北部を除く全国各地の沿岸から沖合海域に生息しており、その中でも富山県の漁獲量は全国有数を誇っている。しかし、近年において漁獲量は減少傾向にあり、漁獲量変動要因に関する情報が必要不可欠となっているが、ソウダガツオに関する生態的な情報については太平洋側に関するものが中心であり、日本海側についてはほとんどない。

そこで、本研究では県内で漁獲されるソウダガツオについて漁獲量の変動要因を検討する上で重要と考えられる生態的な情報の収集を行うことを目的とした。

2 成果の概要

富山県におけるマルソウダの年度別漁獲量は、1990年代後半頃から増加し、2000年代に入ると3,000トンを超えるような年がよくみられるようになった(図1)。しかし、2010年度以降になると漁獲量は減少傾向を示し、2014年度は500トンを下回った。

県内のマルソウダの月別漁獲量は、6～9月頃までは数十トン単位で推移し、10～1月になると数百トン単位にまで増加する傾向がみられた。また、漁期前半は主に尾叉長30cm台の個体が漁獲され、後半になると20cm台の小型個体も混じるようになった(図2)。

県内で漁獲されたマルソウダの生殖腺について生殖腺重量指数(=生殖腺重量/(全体重量-胃内要物重量)*100)を計算したところ、雌雄ともに6月および7月の指数が高くなることが明らかとなった(図3)。

太平洋側での回遊パターンや生殖腺の発達度合い等から、富山県沿岸海域でみられるマルソウダは、漁期前半の時期は主に北上してきた産卵個体群であるとみられ、漁期後半に来遊する個体群については、高緯度海域から南下回遊してきた個体群である可能性が考えられた。

3 成果の活用面・留意点

本研究で得られた結果は、日本海におけるマルソウダの生態的情報として蓄積され、富山県の漁獲量変動要因を解析する上での基礎情報として活用される。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課
担当：南條 暢聡
TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

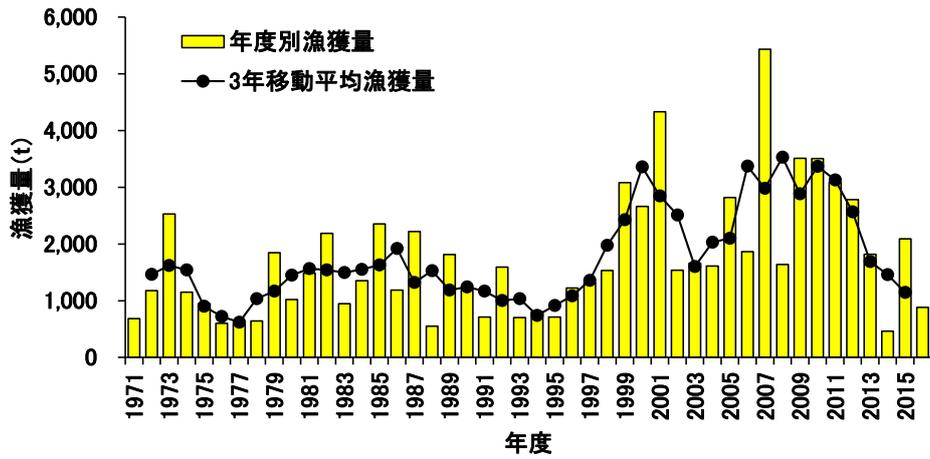


図1 富山県における年度別マルソウダ漁獲量

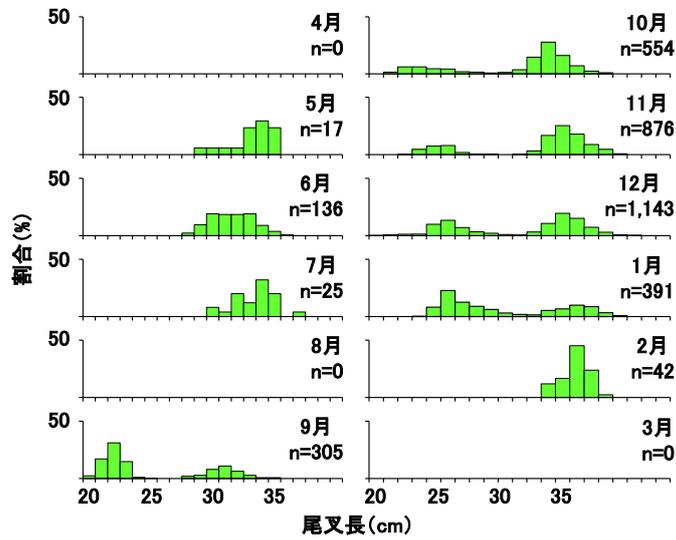


図2 マルソウダの月別尾叉長組成 (2011-2017年)

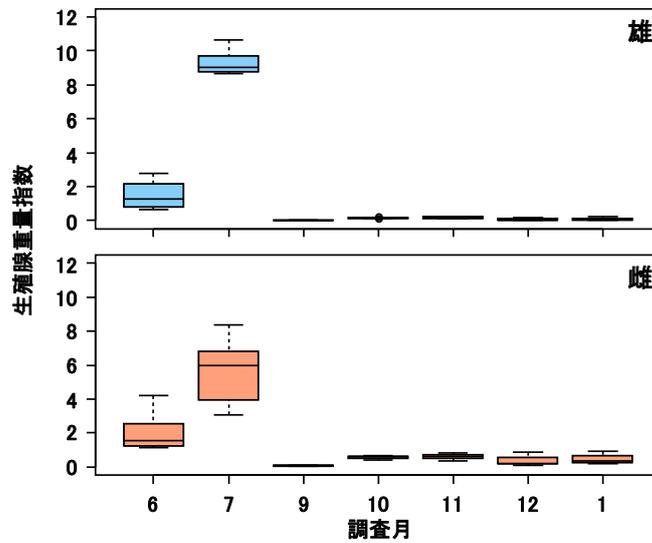


図3 マルソウダの月別生殖腺重量指数 (2016-2017年)